



# Library Liébana

## 2024年4月度展示内容のお知らせ

### 【今月の展示写本】

21年4月に開店して4年目となりました。

今月は引き続き新しく入ったトリノ写本とその元本であるジローナ写本の展示のほか、英仏黙示録写本や時禱書の写本、聖書写本などを展示します。

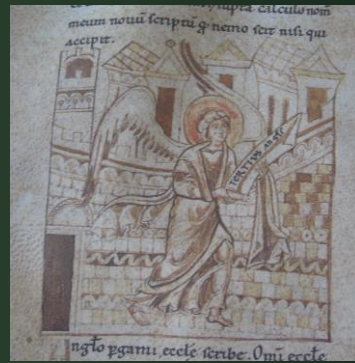
### 【ベアトゥス黙示録写本より】



(ジローナ写本)  
975年



(トリノ写本)  
12世紀第1四半期



(ベルリン写本)  
12世紀



(トリニティ黙示録写本)  
1230-50年



(Duce 180黙示録写本)  
1265-75年頃



(道徳聖書)  
1220-30



(新約聖書 Vat. Lat. 29)  
13世紀前半?

## ファクシミリ本でみるスペイン黙示録の世界 中世彩色写本を紹介

4月の開館日(予定)  
水・木・金・日曜日  
(HPで確認下さい)

Google Map



愛知県豊田市西町5丁目5  
VITS豊田タウン B1F  
(西町5丁目北交差点の  
外側階段を降りて下さい)  
10:00~17:00

H.P.



Instagram



ファクシミリ本とは：  
オリジナル写本の大きさや色を再現。  
特に羊皮紙の厚みやしわも忠実に  
再現した複製本も多数展示しています。



2024年4月		Library Liébana			
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	日曜日
1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30
1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30

4月21日(日)、28日(日)はお休み  
5日(金)は15時開店  
25日(木)は13時開店

## ベアトゥスの黙示録註解書写本について

中世初期のイベリア半島北部アストゥリアス地方のリエバナにある修道院の修道士、ベアトゥス(ベアトBeato ? -798)が776年に「ヨハネの黙示録註解書」を編纂しました。原本は既に存在していませんが、非常に人気を博し、10世紀から12世紀にかけて多くの写本がイベリア半島はもとよりフランスやイタリアなどで制作されました。ほとんどの写本には、彩色された挿絵が多数描かれており、その鮮やかな色使いと想像力豊かなインパクトの強い挿絵が後世にながく影響を与えてきました。

これまでに発見されたベアトゥス写本のうち、挿絵入りのものは29 写本あり、そのうち完本の写本は22写本、断簡の写本が7写本あります。

本ライブラリーには完本22写本のうち20写本のファクシミリ版があります。ファクシミリ版の中には羊皮紙の厚みやシワ・汚れ・破れ・落書きなどをそのまま再現した精巧なものもあります。

1000年近く前に作成された写本の当時の雰囲気味わってください。

### 今月の展示写本

トリノ写本とその元本のジローナ写本とともに、英仏で流行した黙示録写本や、聖書写本などを展示します。

#### 【ベアトゥス黙示録註解書：ジローナ写本】

114点の挿絵はほぼ完全な姿で残っており、写本の大きさも縦が約400mmもあり、12世紀以降に制作されたマンチェスター写本などを除けばウルジェイ写本と並び当時最大の写本でした。

挿絵は、イスラムの影響を受けたモサラベ風の建築物や服装などが多くみられる。幾何学的な形状、豊かな色、装飾された敷地、様式化された人物といった形に、イスラム美術と装飾的伝統が混ざって表現されている。

写本の最後の署名から、976年7月6日におそらくタバラの修道院で完成しました。挿画はエメテリウス(タバラ写本も制作)とエンが行いました。

挿画はエメテリウス(タバラ写本も制作)とエンが行いました。エンは女性名で修道女と考えられます。このことから女性も写本の制作に参加していたことがわかります。(当時の修道院は男女が厳密に分けられていなかった)

#### 【ベアトゥス黙示録註解書：トリノ写本】

本写本は、975年に製作されたベアトゥス写本ジローナ本を、12世紀のカタルーニャで写したものとみられる。

ただし挿絵は12世紀風にアレンジされている。  
(久米順子「スペイン中世写本の楽しみ 慶應義塾所蔵資料を中心に 展示資料解説」より)

106点の細密画(ベアトゥス注釈書に93点、ダニエル書に13点)が収められており、挿画師はジローナ写本の構図を踏襲しているが、色彩や衣服の描き方に関しては、いわゆるモサラベ様式ではなく同時代にふさわしいロマネスク様式に移行している。

#### 【ベアトゥス黙示録註解書：ベルリン写本】

イベリア半島以外で制作された数少ない写本の一つで、12世紀のイタリア中部で制作されたと思われます。

55点の挿絵は他のベアトゥス写本とは違い、細いペン画が主体で、ところどころ薄い黄色や茶色・赤色で彩色されています。

#### 【トリニティ黙示録写本】

13世紀半ばに英仏で流行した黙示録の中でも特異な位置にある黙示録。当時の写本としては大判(435×320)の写本で、豪華絢爛に彩色されていることから、高貴な身分の人に献呈されたと考えられる。

#### 【ドゥース黙示録写本】

「ドゥース黙示録」は、13世紀から14世紀に英仏で多く作られた黙示録写本の系統の一つで、「ゲッティ黙示録」と同じ系統に属する黙示録です。

未完の写本のため、彩色途中の挿絵が多数あり、当時の彩色手順などがよくわかる写本です。

#### 【道徳写本(教訓聖書)】

1220年代のパリで作られたものの一つで、現存する唯一のフランス語写本(他はラテン語)。

道徳的な教育のために造られた絵本のようなもので、もっとも有名な挿絵は一番最初に描かれている神の絵で、カオスから円形の宇宙を設計するためにコンパスを使用している創造主神の絵です。

#### 【新約聖書写本】

13世紀前半に南イタリアでヴェネツィアの貴族ゾルツィ家のために製作されたと推測。

172葉に118点の挿絵が描かれています。挿絵は4福音書と使徒行伝・黙示録に描かれ、黙示録の挿絵が26点と一番多く描かれています。